

地域未来牽引企業 特集



地域社会への貢献について語る参加者

豊国は、足場に代表される仮設工事を主体に建築工事・土木工事、鋼構造物工事を営む会社である。同社の特色は、長年にわたる仮設工事の請負を通じて技術と知識を蓄積し、現場ごとの確かな仮設工事の手法を導き出すところにある。本工事を安全かつスムーズに進めていくための同社の取り組みは、社会の一員として社会に役立つ事業活動という企業理念のもとに、地域社会に貢献しているといえるだろう。健全な企業市民を目指す、日々奮闘(えいち)を育み、日々実行する豊国の歩みと事業展開について、今西勝取締役会長、山本成己代表取締役社長を中心に正田充史専務取締役も交えて語り合っていた。(聞き手は田中篤則・奈良新聞社代表取締役社長)

対 談

■豊国とは

「豊国とはどのような会社でしょうか。」

山本 建築工事・土木工事、鋼構造物工事を請け負っています。主なる事業は仮設工事、すなわち足場の工事請負で、全体の6割くらいを占めています。創業は平成元(1989)年、会社設立は平成4(1992)年です。従業員は100名、直用作業員は300名です。トラック、ラフタークレーン、バックホウ、リフトなどの設備や、枠組足場材15万平方メートル、式足場材30万平方メートル、敷設板500枚、仮囲い5千枚、太陽光発電事業なども手掛けています。

■創業の思い出

「創業の思い出やエピソードがありますか。」

今西 「承知のようにつに昭和39(1964)年に東京オリビック、昭和45(1970)年に大阪万博があり、建設業は何をやっても受注がありました。このような

企業市民として地域に貢献

仮設工事業

足場を軸に進化 信頼のサービス

「いまを生きる」指針に つてきたという実感はありませう。目の前のこと、当り前のことを意識してやっています。例えば、回すという経営でした。そして30年の間に多くの社員が集まり、育ち、果立っていききました。

今西 先ほども言いましたが「いまを生きる」がベースという経営哲学です。与えられた仕事、経営哲学です。与えられた仕事、経営哲学です。与えられた仕事、経営哲学です。

「創業から30年ほどでここまで発展された理由」といって、原動力は何でしょうか。

山本 一口で言えば、今西の人間的魅力です。最初は5人くらいからのスタートでしたが、今西のこの人柄から「あなたが独立するのなら、ついていく」という人が集まりました。今西の自宅が事務所、仕事が終わると毎晩みんなで集まって将来を語りたりしたものです。設備



山本 成己代表取締役

「当たり前」を意識して

「御社の事業の現状と課題についてうかがいたいと思います。」

山本 これまで特別にこれをや



今西 勝会長

ネを支えられるとき、そこにはその人の基準があります。その基準以上のサービスの提供を受けたとき、お客様は「安い物を買った」と実感されるでしょうし、我々はいつもそこを目指しています。また足場の仕事は比較的に粗いので、競合する同業他社が多いのが現実ですが、個々の顧客ニーズに応じること他社と過大な競合をしないように努力をしています。

豊国 沿革	
1989年3月	創業
1992年6月	株式会社豊国設立
1994年9月	滋賀営業所を開設
1996年8月	大阪営業所を開設
2000年2月	東部営業所を開設
2001年12月	一般建設業の許可を取得
2002年2月	榛原営業所の開設
2005年12月	特定建設業の許可を取得
2006年4月	南和営業所を開設
2009年4月	南和営業所を移転
2010年4月	大阪営業所を移転
2015年4月	東京営業所を開設
2016年5月	北葛営業所を移転、奈良中央営業所に名称変更
2017年3月	埼玉営業所を開設
2019年5月	山本成己が代表取締役役に就任
2020年10月	鉄骨製作認定工場
2020年10月	Mグレード取得
2020年10月	㈱豊国一級建築士事務所開設

■雇用の現状と課題

「働き方改革など、建設業界を取り巻く環境は厳しくなっています。いかがですか。」

山本 法令遵守(じゆんしゆ)はもちろんです。労働局からは業界のモデルとなるような企業であることを自覚してほしいと働きかけられています。働き方改革については、適切な労働条件の整備と福利厚生の充実を図るとともに、技術革新による労働時間の短縮も追求しています。そして、仕事とは単純に労働時間を短縮すればいいというものでもないと思っています。

■外国人雇用

「外国人雇用についてはいかがですか。」

正田 一言で「外国人雇用」と言ってもいろいろな制度や形態があります。外国人の人材育成制度として海外の技能実習生に日本人の技術や知識を伝える、外国人技能実習制度や、日本の少子高齢化の影響は非常に深刻で、国内では十分な人材が確保できないというところから、外国人の就労を認める在留資格制度の特定技能外国人制度、そして留学生を含む専門知識や技術を有する高度外国人と呼べる方々、当社はこれまでも各々が有する特性を活かした外国人の雇用を推進してまいりました。

■今後の展望

「これからの展望についてうかがいたいと思います。」

今西 昨今の社会情勢はめまぐるしく動いています。大規模自然災害や新型コロナウイルス、AI等のデジタルとの融合と進化が織りなす環境下においても、私たちはこの社会と共に更なる努力でハイコオリション(高品質)とハイエリーション(進化)を目指したいですね。

また、企業としての社会的な責任を果たしていくためにも将来「上場」というステージには興味があります。ただそれを行うかどうかという時期は、慎重に検討するべきだと考えます。

山本 私としては30年前に抱っていたような風、活躍の場を与えていただいたご恩をお返ししたいという思いがあります。単にこの会社にご恩返しするだけではなく、業界にも、そして地域社会にも返していきたいと思っています。その過程で、建設業界にとって必要な改革のお手伝いもしていきたいと考えています。

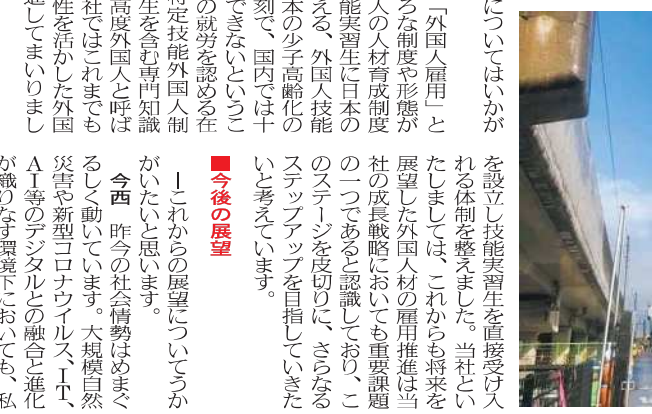
建設業界にはさまざまな課題がありますが、建設業の安定的発展が柱の一つとなつて国を牽引(けんいん)していきたいという歴史を踏まえ、業界の更なる発展にこれからも寄与していきたいと思っています。



安全大会風景

「働き方改革など、建設業界を取り巻く環境は厳しくなっています。いかがですか。」

山本 法令遵守(じゆんしゆ)はもちろんです。労働局からは業界のモデルとなるような企業であることを自覚してほしいと働きかけられています。働き方改革については、適切な労働条件の整備と福利厚生の充実を図るとともに、技術革新による労働時間の短縮も追求しています。そして、仕事とは単純に労働時間を短縮すればいいというものでもないと思っています。



北陸新幹線橋井開発高橋工事

外国人に多様性を期待



正田 充史専務取締役

「外国人に多様性を期待」といって、外国人の雇用についてうかがいたいと思います。

正田 一言で「外国人雇用」と言ってもいろいろな制度や形態があります。外国人の人材育成制度として海外の技能実習生に日本人の技術や知識を伝える、外国人技能実習制度や、日本の少子高齢化の影響は非常に深刻で、国内では十分な人材が確保できないというところから、外国人の就労を認める在留資格制度の特定技能外国人制度、そして留学生を含む専門知識や技術を有する高度外国人と呼べる方々、当社はこれまでも各々が有する特性を活かした外国人の雇用を推進してまいりました。